



## 天平の風

山添 聖子  
(奈良)

春日山から三輪山へ青垣を辿りて帰るふるさと桜井

東大寺前の信号曲がるとき鹿と目が合い道を譲りぬ

朝もやの飛火野に鹿集まりてどんぐりをまく人を囲めり

六升の餅ちぎる役終えた手を浸す故郷の水やわらかし

少年の名のように呼ぶ「こうじゅうた」語源は麴蓋と知りても

こうじゅうたは絶滅危惧種なのだろう餅つく家の減りたる令和

ひっそりと秘密を打ち明けるように真名にて呼んでみる「麴蓋」

それぞれの名前を祝い箸に書く筆ペンの墨ほのかに匂う

大晦日のお風呂上がりは美容液もうワンプッシュ重ね塗りする

新しい歯ブラシ四つ並びたりそれぞれ好きな色を選びて

道端のお地藏さんの前掛けと餅うつくしき正月の朝

上履きは25センチを超えるころまた別の種になる新学期

今日あった学校のこと聞きながら歩くのにちょうどいい暗さの道

復原と復元の違い学びたり大極殿の展示パネルに

冬晴れの平城宮跡 天平の風に吹かれてウォーキングする

このごろの私

骨密度が低いとかかりつけ医に言われてウォーキングを始めた。夕食後や週末に歩きに行く。ときどき子や夫がついてくると、とりとめのない話をしながら遠回りのコースや冒険コースになり楽しい。



## ただいま

岡崎 清和  
(香川)

このごろの私  
耳鳴りがしております。突  
発性難聴と思ひ病院に行きま  
したが、心配ないと先生は言  
います。でもまだ耳の中で蟬  
が鳴いております。また、腰  
部脊柱管狭窄症の影響で、重  
い物が持てません。今年の米  
作りはどうなるでしょう。

「ただいま」と孫の声して「おかえり」と妻の嬉しさ玄関に飛ぶ

高一の孫ひさびさに見上げれば鴨居に届くほど伸びのびて

正月に鯛の塩焼き一尾置く置かれたままで二時間が過ぐ

正月の家族写真に考ちをらずもう三年が過ぎてしまった

年玉を工面すれども年金の生活さてきて来月どうする

僅かなる年金貯めて年玉を孫たちに渡す母の嬉しげ

子や孫の声が飛び交ひ駆けまはる八畳間こんなに狭かつたかな

夜九時に寝るが慣ひかをみなごは「おやすみなさい」とハグをしにくる

ばいばいと手を振る子と孫ばいばいと見送る妻と我も手を振る

初東風に乗り子や孫たちは帰りきて二日の思ひ出残し去りたり

子や孫の声が消えたる八畳間広々として時計が止まる

山あひの小学校は廃校し子ら植樹せしオリーブさやく

うぶすなの初詣にて出会ひたる恩師九十七歳わが名忘れず

田舎もんの年寄り切符買ひ難し無人の券売機が占むる駅

あといくど正月を迎へられるのかあといくど米を作れるだらうか